

企業と生物多様性イニシアティブ (JBIB)のご案内

Japan Business Initiative for Biodiversity

一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブは、2008年4月に発足した、生物多様性に関する取り組みへの意欲の高い企業のアつまりです。現在では、45社の企業が集まり、最新情報やノウハウの収集、そして企業間のネットワーキングを積極的に行っています。JBIBの取り組みは国内外で高い評価を受け、環境白書や生物多様性条約への国別報告書、持続可能な経済人会議(WBSCD)の“Eco4Biz”(生物多様性を事業に組み込むためのツールを紹介する報告書)等でも紹介されています。

主な成果物

企業が生物多様性への取り組みを進めるためのツールとして、以下のような成果物も作成してきました。

- 生物多様性への取り組みヒント集
- 企業と生物多様性の関係性マップ®
- いきもの共生事業所®推進ガイドライン
- 生物多様性に配慮した企業の水管理ガイド
- いきもの共生森づくりガイドライン
- 生物多様性に配慮した企業の原材料調達推進ガイド

※詳しくはJBIB ウェブページ (<http://jbib.org/about/output/>) をご覧ください。

会員制度

JBIBには、以下の2種類の会員制度があります。

- 正会員
ワーキンググループ活動に参加して、生物多様性に取り組むためのツールやガイドラインなどを開発します。生物多様性に本格的に取り組みたい企業様におすすめです。
- ネットワーク会員
生物多様性入門連続講座などへの参加を通して、生物多様性の基礎的な知識から、具体的な取り組み方までを身につけていただけます。生物多様性にどのように取り組むべきか検討している、これから取り組みをはじめようとしている企業様におすすめです。

理事

会長	藤井 史朗	(MS&AD インシュアランス グループ ホルディングス株式会社 取締役副社長執行役員)
副会長	西貝 昇	(三菱地所株式会社 取締役兼執行役常務)
	加藤 茂夫	(株式会社リコー 執行役員 サステナビリティ推進本部長)
	金光 英之	(富士通株式会社 環境・CSR 本部長)
	磯野 正智	(株式会社竹中工務店 経営企画室長)
	吉宮 由真	(味の素株式会社 常務執行役員)
事務局長	足立 直樹	(株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役)

主な活動内容

■全体会（月次）

月に一度正会員が集まり、生物多様性に関する最新情報の共有や、各ワーキンググループの取り組みの進捗報告、会員企業の取り組み紹介などの情報交換を行っています。

■ワーキンググループ活動

JBIBには5つのワーキンググループ（WG）があり、それぞれがガイドラインや、取り組み推進のためのツールを開発しています。正会員は、各社1つ以上のWGに所属することができます。WGに参加することで、開発するガイドラインやツールをいち早く業務で活用することができるだけでなく、WG活動を通して情報共有やネットワーキングを行うことができます。

2018年度のワーキンググループ活動は以下の通りです。

※ 2018年7月より新しいWGを立ち上げました。以下は今後の活動予定になります。

【ESG情報開示研究WG】

ESG投資家からの評価の側面や、それらにどのように対応し情報開示をするのかを研究し考えていきます。代表的な評価機関の内容及び、そこに生物多様性がどのようにかかわっているのかを調べ研究を始めます。

【緑地価値発見コミュニケーションWG】

企業緑地のいきもの調査など具体的な行動を通して緑地の価値を発見し、情報共有しつつ社会へ広げていくよう努めます。また、外来種の大きな流れを理解し、各企業が取り組めるようにしていきます。

【サプライチェーン研究WG】

サプライチェーンの中で何に気を付けるべきかという事を研究していきます。一年の研究内容をレポートにまとめることを目標とし、NGOの話聞く等の様々な機会を設けていきます。

【SDGs街づくり研究WG】

まずは参加者の知識レベルを高めていくことを目標とし、アウトプットを定めそれに向けて進めていきます。専門家を招き議論をして、応用したツールを作っていきたいと考えています。

【海洋プラスチック研究WG】

海洋プラスチックのみならず、プラスチックのサーキュラーエコノミーなども調べていこうと考えています。また、欧州、中国を中心に国際動向を調査していきます。

■生物多様性入門連続講座

1年間、全6回の講座を通して、生物多様性に取り組む意義から実際の取り組み方まで理解していただきます。生物多様性に取り組む先進企業の担当者から生の話も聞くことができ、どうしたら無理なく実行できるのか、現実的なやり方を学べます。

2018年度	テーマ	ワークショップなどの内容
第1回 5月	生物多様性とは何か～企業にとっての意味～	事業と生物多様性とのつながりを“見える化”しよう
第2回 7月	生物多様性に組織的に取り組む方法	ESRを体験しよう
第3回 9月	先進企業に学ぶ生物多様性の取り組み方	先進企業による事例発表とパネルディスカッション
第4回 11月	生物多様性と原材料調達リスク	持続可能な原材料調達の方針・目標を策定しよう
第5回 1月	生物多様性に関する国際動向	COP14参加者による報告とパネルディスカッション
第6回 3月	NPO/NGOとのパートナーシップ	NGOとざっくばらんに意見交換しよう

※詳しくはJBIB ウェブページ（ <http://jbib.org/lecture/> ）をご覧ください。

■現地見学会・生態系体感研修会

百聞は一見に如かず。生物多様性保全の優れた取り組みを実際に見学します。1日で行う現地見学会（1～2回/年）と1泊2日で行う生態系体感研修会（1回/年）を開催しています。

■外部講師を招聘しての勉強会

生物多様性に関するホットなテーマについて、外部の専門家を招いて勉強会を開催しています。これまでに、生物多様性に配慮した持続可能な原材料調達、環境影響の定量評価（ライフサイクルアセスメント、エコロジカルフットプリントなど）、外来種問題、企業と水リスクなどをテーマに行いました。

■経営者懇談会

年2～3回、各社の経営層の方々にご参集いただき、生物多様性に関わる国際的動向の情報共有や、今後のJBIBの活動展開についての意見交換を行っています。生物多様性を経営に組み込むために役立つと好評をいただいています。

■情報発信

JBIB や会員企業の取り組みを、国内外に向けて積極的に発信しています。

- エコプロダクツでのシンポジウムの開催
- 「企業が語るいきものがたり」（三井住友海上が毎年開催）への特別協力
- 生物多様性条約 COP や各種の国際会議での発表、サイドイベントの開催 など

■省庁、自治体との意見交換

環境省、農林水産省をはじめとした省庁や東京都などの自治体と意見交換を行い、企業が生物多様性に取り組むやすい環境の整備を推進しています。

正会員とネットワーク会員の違い

正会員とネットワーク会員では、参加いただける活動が以下のように異なります。

活動	正会員	ネットワーク会員
全体会（月次）	○	○*
ワーキンググループ活動	○	-
生物多様性入門連続講座	○	○
現地見学会	○	○
生態系体感研修会	○	○*
外部講師を招聘しての勉強会	○	○*
経営者懇談会	○	○*
年次総会	○	-
正会員用メーリングリスト	○	-
ネットワーク会員用メーリングリスト	-	○
情報共有用メーリングリスト	○	○
年会費（非課税）	315,000 円	210,000 円

※空席があれば参加可能

会員企業

正会員：29 社（企業名 50 音順、2018 年 7 月現在）

アサヒグループホールディングス株式会社	清水建設株式会社	パナソニック株式会社
味の素株式会社	住友林業株式会社	株式会社日立製作所
アスクル株式会社	積水化学工業株式会社	富士ゼロックス株式会社
イオン株式会社	積水ハウス株式会社	富士通株式会社
MS&AD インシュアランスグループホールディングス株式会社	大日本印刷株式会社	株式会社ブリヂストン
大阪ガス株式会社	株式会社竹中工務店	三菱地所株式会社
花王株式会社	株式会社地域環境計画	森ビル株式会社
株式会社グリーン・ワイズ	帝人株式会社	株式会社リコー
サラヤ株式会社	凸版印刷株式会社	レンゴー株式会社
JXTG エネルギー株式会社	日本生活協同組合連合会	

ネットワーク会員：16 社

株式会社 ADEKA	東洋製罐グループホールディングス株式会社	古河電気工業株式会社
大塚製薬株式会社	株式会社日清製粉グループ本社	マルハニチロ株式会社
株式会社大林組	日東電工株式会社	三菱商事株式会社
キャノン株式会社	日本ケミコン株式会社	三菱製紙株式会社
コクヨ株式会社	日本水産株式会社	ユニ・チャーム株式会社
大成建設株式会社		

ご入会のご希望やお問い合わせは、下記までお気軽にご連絡ください。

お問い合わせ先：一般社団法人 企業と生物多様性イニシアティブ

E-mail: sec@jbib.org 電話：045-228-7696 URL: <http://jbib.org/>